

# 日本義肢装具士協会論文賞 及び 日本義肢装具学会 飯田賞奨励賞 受賞報告

研究所 義肢装具技術研究部

この度、研究所義肢装具技術研究部の中村隆義肢装具士長は、公益財団法人日本義肢装具士協会学術誌の優れた論文に与えられる「第10回POアカデミージャーナル論文賞」と、一般社団法人日本義肢装具学会の学会賞である飯田賞奨励賞をそれぞれ受賞いたしましたので報告します。

## 1 日本義肢装具士協会論文賞

「第10回POアカデミージャーナル論文賞」は中村義肢装具士長が執筆した原著論文「義肢装具材料としての熱溶解積層法3Dプリンタによる造形物の力学的特性」に対して与えられました。3Dプリンタは、近年新たな製造手法として注目されており、少量多品種の部品を必要とする義肢装具分野においても有効な手法と考えられています。この論文では3Dプリンタ造形物と既存材料の材料力学的性質の比較を行い、基礎的知見を得ただけでなく、実際に義肢装具の製作を行う義肢装具士の視点から解析を行なったことが評価されました。この論文は福祉機器開発部 硯川潤福祉機器開発室長、高嶋淳研究員、相川孝訓氏、千葉工業大学 庄司瞳氏との共著です。なお、当該論文は義肢装具技術研究部のホームページにあるWeb論文集「Atlas of Prosthetics & Orthotics in NRCD」にPDFを掲載しています。

## 2 日本義肢装具学会飯田賞奨励賞

日本義肢装具学会の学会賞である「飯田賞」は、国立障害者リハビリテーションセンター初代研究所長 故飯田卯之吉先生が永年に亘り義肢装具の発展のために尽くされた業績を偲んで

1981年に日本義肢装具学会に設けられ、義肢・装具・リハビリテーション工学の分野で優れた

業績をあげた者に対し授けられる賞です。毎年本賞と奨励賞が学会選考委員会の審査を経て選出されます。今回の奨励賞の受賞理由として、臨床における困難症例の義手・義足製作はもとより、多肢切断者のADL・QOLの向上や社会復帰への取り組み、筋電義手普及への貢献、さらに臨床業務を基盤とした様々な研究課題への取り組みが挙げられました。また、学会理事、国家試験委員、及びセンター研修会講師などの社会貢献活動も評価されました。

今回の二つの受賞に共通することは、義肢装具技術研究部の業務が多くの方々との協力により成り立っていることであり、義肢装具士の多方面での活動の成果が認められたことを大変うれしく思います。義肢装具技術研究部の業務は、センター職員のみならず、切断者をはじめとする義肢装具利用者との協働作業です。ここに深く感謝の意をお伝えします。

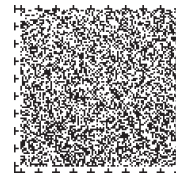


飯田賞奨励賞の盾

(「Ars longa, vita brevis」はヒポクラテスの言葉。「技術は長く、人生は短し」の意味)

## 学院 義肢装具学科 ICT研究会 松下亜実さん（3年）が最優秀 学生演題賞に輝く —第37回日本義肢装具学会学術集会にて—

学院 義肢装具学科 教官 徳井 亜加根



2021年10月、第37回日本義肢装具学会学術集会において、学院義肢装具学科・松下亜実さんの「上肢に障害を持つ児童のためのリコーダー演奏補助装置の考案」が最優秀学生演題賞に輝きました。彼女が所属するICT研究会としては、昨年の優秀学生演題賞に続く2年連続の受賞です。大学生や大学院生も演題登録する中で、在学年数が短く、過密なカリキュラムの専修学校生が受賞したその裏にある、彼女の不断努力と、困難に決して負けない「志」、そして、彼女を支えた仲間への敬意を払わずにはられません。

### 1 ICT研究会とは

2019年、松下さんの同級生である故鈴木夏弥さん（2020年秋、腫瘍により逝去）が、「受け身の勉強ではなく、もっと多くのことを勉強したい。誰かの役に立ちたい。一緒にやろうよ!」と呼びかけ、賛同する同級生と結成したのがICT研究会です。新型コロナウイルス感染症の爆発的拡大が見られた2020年春、コロナ病棟を含む12都府県72施設に対して、独自に製作したフェイスシールドとマスクを寄贈した活動が高く評価され、令和2年度ぼうさい甲子園「しなやかwithコロナ賞」、第36回日本義肢装具学会学術大会「優秀学生演題臨床行動科学賞」を受賞しました。鈴木さんが亡くなる前に仲間に託した「どんな困難にも負けない義肢装具士に!」という志は受け継がれています。

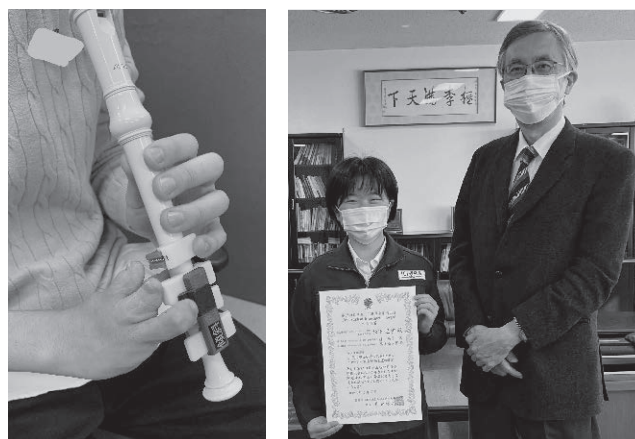
### 2 取り残された障がい者音楽

2021年に開催されたオリパラ東京大会では、障がい者スポーツに注目が集まりました。しかし、上肢障害児は体育だけではなく、音楽でも問題を抱えています。実際、リコーダー演奏に困っている児童についての報告は約40年前から見られるものの、未だ解決できていません。障

害児のリコーダーを積極的に製作していた東京都補装具研究所が1997年に閉鎖された後、個人的に活動を引き継いだ古山和男氏も2000年頃に活動を終了、現在、多くの上肢障害児がリコーダー演奏を諦める状況が続いています。

### 3 松下さんのリコーダー演奏補助装置

松下さんが今回考案した装置のコンセプトは、①市販のリコーダーに取付け可能、②誰でも取付け可能、③障害に応じて取付けるパーツのアレンジが可能、というものです。つまり、松下さんの装置は、製作したパーツの取付け、アレンジを行うのが児童自身あるいは保護者等を想定しているところに新しさがあります。パーツを取り付けると、1本の指もしくは腕で最大3つの音孔が操作可能になります。パーツは3Dプリンタで出力したものを組み立てていますが、今後、パーツの取付けだけでなく組立作業をも誰もができるように工夫することで、3Dデータを無料配布すれば誰でもこの装置を使用できるようにするのが目標です。



左：松下さんの考案したリコーダー演奏補助装置  
右：オンライン学会での受賞だったため、学術大会長に代わり、前義肢装具学会長の芳賀信彦自立支援局長に賞状を授与していただきました

